# 漫画『SPY × FAMILY』の登場人物に見る言葉づかいの切り替わり

# Switching Between Linguistic Expressions as Seen in the Characters of the Manga “SPY × FAMILY”

小　松　満　帆
KOMATSU Maho



〔要旨〕
日本語学習者にとって、フィクション作品に現れるキャラと結びついた言語表現を知ることは、作品の面白さをより感じ取り、また、その中から的確に言葉づかいを選び取り、「表現したい自分」をより正確に作り上げていくために有益である。本稿では、漫画『SPY × FAMILY』に登場するユーリとフィオナという 2 人の登場人物が、そのキャラに応じてどのように言葉づかいを変化させているかを観察し、そのアーキタイプと言葉づかいの特徴について考察した。「影」でありながら正体を隠し切れず、本音が発言にあふれ出しているユーリと、「同調者」でありながら本音と発言とに明確な境界が存在し、何を考えているかわからないと評されるフィオナという、本来期待される役割とは逆、かつ独特な言葉づかいにより、「トリックスター」として本作に面白みを加える一因となっていることが観察された。

**Key word:** キャラ、役割語、漫画、アーキタイプ、日本語教育

# 1. はじめに

漫画・アニメが日本を代表するサブ・カルチャー・コンテンツとして世界に広く知られるようになり、それらをきっかけとして日本語を学び始める学習者が多く見られるようになって久しい。動機として、そして、学びの手段として漫画・アニメが広く日本語学習者の目に触れていることは想像に難くない。実際の日本語教育の現場でも、アニメや漫画が使用されるようになっており、実践報告も多くなされている。

福池（2022）は、「細かい表現の違いが発話者の性格やその場面・状況での人間関係・役割を表す」ことがあり、先行研究や日本語教材において、これらの「断片的な人格の一側面」が『キャラ』と呼ばれているとして、「フィクション作品においては断片的なキャラを重層的に描写することや、日本語教育において、キャラと結びつく言葉を積極的に採り入れようという教材も出版されている」としている（福池、2022、1）。フィクション作品に現れる言葉づかいと現実の日本語使用とを関連づける、あるいは区別するべく、日本語教育の現場でも、それらの表現に注目する動きがあるといってよいだろう。日本語学習者が、それらの表現や言葉づかいに触れ、そこから現実世界での使用が不自然でないものを選び出し、またさらに、自己を表現する際に適切と思われるものを抜き出し、「表現したい自分・相手に見せたい自分」を正確に作り上げていくためには、その知識を持つことが不可欠であるといえる。

一方、矢崎（2019、177）は「人は元来アニメ作品を『楽しむ』ために視聴する」と指摘しており、小松（2014）では、日本語による作品を楽しむための要素として、フィクション作品に登場する役割語の知識の必要性について述べている。ここではアニメについて言及されているが、本来は娯楽作品として制作されているフィクション・コンテンツとして捉えれば、漫画も同様であると考える。フィクション作品においては、作品を進行するにあたっての役割が登場人物に与えられている。また、かれらの言語表出がその役割と結びついている場合も多い。したがって、それらの役割と表現の関係性、あるいはそこからの逸脱性を理解することが、作品そのものを理解し、その面白さを感じ取るための重要な因子となっていることは容易に想像できる。

このような状況を鑑み、今後は漫画を用いた日本語教育実践というものも、より多く行われていくであろうことが予想される。しかし一方で、それらの表現に関する分析や整理が不足している感も否めない。本稿では、漫画の登場人物の作品中での役割と、同一登場人物の使用する表現の変化や切り替えを観察し、日本語教育への示唆の一端とするべく、分析を試みるものである。

# 2. 先行研究

## 2.1　フィクション作品における言葉づかい

漫画を含むフィクション作品の中に現れる登場人物の言葉づかいを考える際、金水（2003）の提唱した役割語の概念が用いられることが多い。役割語は、以下のように定義されている。

> ある特定の言葉づかい（語彙・語法・言い回し・イントネーション等）を聞くと、特定の人物像（年齢、性別、職業、階層、時代、容姿・風貌、性格等）を思い浮かべることができるとき、あるいはある特定の人物像を提示されると、その人物がいかにも使用しそうな言葉づかいを思い浮かべることができるとき、その言葉づかいを「役割語」と呼ぶ。
>
> （金水、2003、205）

役割語は、ステレオタイプ的な観念と関連付けられているもので、それゆえに、ヴァーチャルな言語表現であるとする見方もあり、現実世界での話し方には現れない表現が含まれるとされることもある。しかし、定義を見れば、その適応範囲は非常に大きい。金水（2017）では、「役割語度」という尺度を用い、「強く特定の話者像を限定させるような役割語は『役割語度が高い』と言え、逆に多くの話者に適応可能な話し方は、『役割語度が低い』」とし、「標準語」が最も「役割語度が低い」としている。その尺度を用い、フィクション作品に現れる個性的な言葉づかいが役割語からどのぐらい離れているのか、ずらされる、混ぜ合わされるなどした特殊な話し方であるのかを見ていくことができるとしている。

定延（2018、2020）は、人間はコミュニケーションにおいて、状況に応じて非意図的に変化し得るとし、「スタイル」「人格」「キャラ」という 3 つの見方を提唱している。このうち「キャラ」とは、「人格」（人間の一部であり、基本的には変化することがないもの）と「スタイル」（例えば相手によって話し方を変えるように、切り替えても問題のないもの）との間に位置するものであるとされ、「状況の中で、自分の意図とは関わらない形で知らず知らず変わってしまう人間の姿」（定延、2020、71）であり、「『本当は変えられるが、変わらない、変えられないことになっている』という点で『スタイル』『人格』とは区別される」としている（定延、2020、80）。また、キャラと言語表現との関わりについて整理した上で、「濃淡の程度差はあれ、すべてのことばは『役割語』と考えることができる」とも述べている（定延、2020、183）。

以上のような定延の定義するキャラの概念に沿って、福池（2022）は、日本語社会では比較的キャラが変わりやすいとする定延の見解を引用し、「日本語学習者にとって、キャラの概念を学ぶことがよりよい自己表現に資する」としている（福池、2022、5）。また、「言葉遣いの選択から、本人が意図しないキャラを付与される可能性を考えると、『キャラ』や『キャラことば』の概念を教育する必要が浮かび上がる」とし、「文型や語彙のような学習項目と異なり、キャラことばは文脈から切り離して教えることが非常に難しい」としながらも、「学習者への支援として、作品の中でどのような点に注目するとキャラとことばの結びつきがわかるかを手引きするような教育があれば大いに手助けになる」と述べている（福池、2022、5）。

本稿では、上記の福池の見解に立ち、フィクション作品における話しことばを、日本語学習者支援の一端とすべく、探っていくものとする。

## 2.2　漫画の登場人物の発話分析

漫画を対象とした言葉づかいや役割語、キャラによる話し方については、複数の研究が報告されている。具体的には、少女漫画に現れる少女の「女ことば」に注目した高橋（2009）、ボーイズラブマンガでの役割語表現を分析した Redmond（2016）、少年漫画キャラクターの文末表現に着目した三山（2021）などが挙げられ、近年、その件数は増えてきている。その中でも、福池（2020、2022）は、日本語教育への還元という最終的な目的のため、複数の漫画作品の言葉づかいを多角的に分析しており、特筆に値する。

イーヴァソン（2021）は、漫画『SPY × FAMILY』のアーニャとヨルという 2 人の登場人物の話し方を分析し、その英語対訳に日本語における言葉づかいが反映されているかを観察しているが、その中で、VOGLER（2007）の提唱するキャラクター・アーキタイプを使用し、2 人の言葉づかいについて考察している。金水（2017）は、ユング心理学を元にしたこのアーキタイプを用いて、アニメ作品『風の谷のナウシカ』の登場人物とその言葉づかいについての分析を行っているが、その中で、「キャラクターの言語からキャラクターと作品を分析する方法」として、登場人物のアーキタイプを考え、その機能について分析することで、作品の構造を分析することにつながるとしており、イーヴァソン（2021）でもそれに倣ったものである。VOGLER（2007）の挙げた 8 つのキャラクター・アーキタイプは以下の通りである。

①英雄
　アイデンティティや自我の象徴。
②メンター（師）
　教え、守ることで、英雄を導く人物。
③戸口の番人（敵対者）
　英雄の重要なターニングポイントとなる地点で障害となる力。
④使者
　英雄に動機を与え、試練をもたらすことで、行動を促す人物や出来事。
⑤変貌者
　変身することにより、絶えず変化しているように見える者。本性が見えにくい。
⑥影
　英雄にとって最も根源的な敵対者。悪役、競争者、敵。
⑦同調者（仲間）
　英雄の変化を助けるキャラクター。
⑧トリックスター
　道化。冗談や失敗により周囲を混乱させたり和ませたりする。

本稿では、この金水の分析方法を採用し、漫画『SPY × FAMILY』の中で、主人公ロイド（英

雄）の「影」と「同調者」であるそれぞれのキャラクターの言葉づかいと、同時に「変貌者」かつ「トリックスター」でもある彼らの言葉づかいの変化や切り替えについて観察し、その特徴をまとめるものとする。

## 3. 漫画『SPY × FAMILY』

### 3.1 作品の概要と選定

漫画『SPY × FAMILY』は、集英社の漫画雑誌アプリ／ウェブコミック配信サイト『少年ジャンプ＋』において、2019 年 3 月より掲載されている遠藤達哉による作品で、2023 年 10 月現在、単行本 12 巻が出版されている。掲載以後、閲覧数・コメント数・発行部数における最高記録を更新しており、『少年ジャンプ＋』史上の大ヒット作となった。2022 年にはテレビアニメシリーズが放送され、2023 年にはミュージカル作品および劇場アニメが上演されたほか、テレビシリーズの Season 2 も放送された。

後述するあらすじにおいて詳述するが、本作品には、スパイ、殺し屋、秘密警察といった、その正体を隠して生活している登場人物が複数登場するため、元々の人格である「素の自分」と、対外的に見せている「偽りの自分」とで、表現されるキャラや使用される言語表現が異なっている場合がある。また、主人公の心の声を文字として表現していく手法は漫画作品の中では多く見られるものであるが、本作品では、主人公以外の登場人物の思考も多く書き込まれており、主人公のみならず、複数のキャラにおいて、その言語表現が切り替わっている（あるいは切り替わっていない）現象を観察することが可能である。それぞれの人物のキャラ・キャラ表現の切り替わり（あるいは切り替わっていないこと）が作品に面白さを加えているといえる。

### 3.2 あらすじ

以下、イーヴァソン（2021）を引用する。

> 物語は、スパイ任務遂行のために形成された仮初めの家族（父はスパイ、母は殺し屋、娘は超能力者）の日常とスパイアクションをコミカルに描いたものである。父・母・娘は互いに正体を隠しているが、心を読める娘だけは全てを知っているという設定であり、1960 年代の旧東西ドイツをモデルにしたと思しき冷戦状態の架空の二国 " 東国（オスタニア）" と " 西国（ウェスタリス）" を舞台としている。西国の敏腕諜報員である主人公・黄昏（たそがれ）は、「東国の要人の子息が通う名門校に子供を通わせることにより要人と接触し東国の動きを探る」という任務のため、東国に潜入し " 精神科医ロイド・フォージャー " として急遽家族を作る羽目になる。孤児院で賢そうな女児（アーニャ）を引き取り、利害の一致する女性（ヨル）と偶然出会い偽装結婚した黄昏＝ロイドは、実はアーニャがテレパスであることもヨルが殺し屋であることも知らぬまま、任務の遂行を目指す。　（イーヴァソン、2021、3）

## 3.3　登場人物

まず、本作の主要登場人物は以下の 3 人である。以下、各人物像をまとめる。ヨル、アーニャについては、イーヴァソン（2021）を引用する。

**ロイド・フォージャー（黄昏、以下ロイドに統一）**

西国の諜報機関「WISE（ワイズ）」に所属する敏腕スパイで、コードネームは「黄昏（たそがれ）」、本名は不明である。東西戦争による戦災孤児であり、その時に味わった孤独、絶望、無力感から戦争への忌避感と東西平和を守ることへの拘りが強く、不愛想かつ冷徹な合理主義であり、スパイとしては任務のために非情に徹することを心掛けているが、素の部分では情に厚い性格も垣間見える。変装が得意で、並外れた戦闘力・記憶力・情報処理能力を持ち、任務ごとに様々な顔・名前を使いわける。東国の要人デズモンドの戦争計画暴露の任務「オペレーション〈梟〉（ストリクス）」を命じられ、バーリント総合病院勤務の精神科医「ロイド・フォージャー」の偽装身分を取得、任務に必要な「家族」である娘のアーニャ、妻のヨルと共同生活を送りながら、主任務と同時に日々舞い込む別件任務をこなしている。

**ヨル・フォージャー（本名ヨル・ブライア、以下ヨル）**

ヨルは両親を早くに亡くし、10 代の頃から弟を養うために暗殺請負の仕事を始めた。27 歳の現在も市役所の事務員という表向きを隠れ蓑に、東国政府関連の組織の指示による“売国奴”の暗殺に従事する凄腕の殺し屋である。独身でいることを周囲から訝しまれ困っていた折にロイドと出会い、「妻と死別した。娘の母親になってくれる女性を探している。」というロイドの言葉に応じて偽装結婚する。どちらも国民のためになる立派な仕事であると自負して市役所勤務と暗殺請負を続けると同時に、「夫」「娘」の正体を知らぬまま、良き妻・母であろうと努力している（イーヴァソン、2021、3）。

**アーニャ・フォージャー（以下アーニャ）**

アーニャは、東国のある組織の実験によって生み出されたテレパスであり、周囲の人間や動物の思念を読むことができる。組織の施設から逃亡し孤児院で暮らしていたが、ロイドの養子になる。推定 4 ～ 5 歳だが、ロイドが就学年齢の子を求めていたため 6 歳と自称。人の心を読んで正解を知ることにより優秀さを装えるが、実力では読み書きもおぼつかない。「父」と「母」の心を読み彼らの正体を知っているアーニャは、自己の希求する家庭的な生活の維持にはスパイ任務の継続が不可欠であること、また任務の遂行が東西間ひいては世界の平和につながることを、幼いなりに理解し、テレパスであることを隠しながらスパイ任務の遂行に協力しようとする（イーヴァソン、2021、3）。

金水（2017）は、物語の登場人物を、内面描写の分量、登場頻度、言葉づかいなどから、①ク

ラス 1：主人公および準主人公（標準語が基調で役割語度は低い）、②クラス 2：重要キャラクター（標準語を含む典型的な役割語・通常の役割語の変形型・独特の話し方）、③クラス 3：ほぼ 1 回しか登場しない無名の人物（標準語を含む典型的な役割語）の 3 クラスに分類しているが、クラス 2 の登場人物は、メンター、同調者、敵対者、トリックスター、変貌者、影といったアーキタイプに属するキャラクターであるとしている。なお、イーヴァソン（2021）はロイドをクラス 1、ヨルとアーニャをクラス 1 に限りなく近いクラス 2 のキャラクターとしている。

本稿では、クラス 2 に属する、ユーリとフィオナという 2 人のキャラクターの言葉づかいに着目する。ユーリとフィオナの人物像は以下の通りである。



**ユーリ・ブライア（以下ユーリ）**

ヨルの弟で、東国の国家保安局少尉（作中では秘密警察とも）であるが、表の顔は外務省所属の外交官となっている。唯一の肉親であるヨルの援助でエリートコースを進み、外務省に就職したが、1 年ほど前（作中）に国家保安局へ異動、東国に潜む〈黄昏〉を追っている。普段は真面目な好青年だが、極度のシスコンで、絶対視する姉のこととなると理性を失い、彼女のいうことならばすべてを信じてしまう。また、ヨルと上司以外には横柄な態度を取ることが多く、酒癖が悪い。最愛の姉ヨルと知らぬ間に結婚していたロイドを警戒しているが、フォージャー家の裏の顔は、姉の正体を含め、全く知らない。ロイドやアーニャを忌避し、二人を邪魔に思うものの、ロイドやアーニャの身に何かあったらヨルが悲しむという二律背反に悩んでいる。自身の裏の顔はヨルにも隠しているが、敏腕スパイであるロイドには初対面で看破されている。

**フィオナ・フロスト（夜帷（とばり）、以下フィオナ）**

ロイド同様、東国に潜入している「WISE」所属のスパイで、コードネームは「夜帷（とばり）」。かつて黄昏から直接指導を受けていた後輩スパイで、彼の教えを忠実に守り、一切の感情を表に出さず淡々と任務をこなすことから、WISE の同僚からは「毒婦」「冷血」「鉄面皮」と呼ばれ、気味悪がられている。表向きはバーリント総合病院の事務員を装い、黄昏の任務をサポートしているが、内心では黄昏に熱烈な恋心を抱いており、隙あらばヨルを追い出してフォージャー家の妻の座を奪おうと目論んでいる。

漫画『SPY × FAMILY』は、ロイド、ヨル、アーニャの、それぞれ正体を隠した「仮初めの家族」というものが物語の主軸となっているが、国家保安局のユーリ、スパイのフィオナも正体を隠しながら生活している。しかし、この 2 人のキャラクターは、スパイと表の顔、国家保安局と表の顔、という単純な二重構造ではなく、さらに隠された（あるいは、隠そうとはしつつも表にあふれ出てしまっている）思考も加わり、複雑なキャラクター設定となっている。次節にて詳説するが、「影」と「同調者」という異なる役割を与えられたキャラクターでありながら、「変貌者」そして「トリックスター」としても捉えられるその特徴から、この 2 人の登場人物の言葉づかい

を取り上げ、考察するものとする。

なお、本稿では、2023 年 11 月現在刊行されている 12 巻 84 話までを分析対象とする。以下、該当箇所については電子版コミックスの「巻数：ページ数」を表すものとし、発話箇所は通常体、思考は斜体で示している。また、引用文中のスペースは作品内での文中の改行箇所を示すものとして、下線は注目すべき点として、筆者が追加したものである。

また、ユーリとフィオナの登場話は表 1 に示す。

表 1　ユーリとフィオナの登場話

| | 巻 | 話 |
|---|---|---|
| ユーリ | 1 | 2（ヨルとの電話での発言のみ） |
| | 2 | 10、11 |
| | 3 | 12、13、14 |
| | 5 | 24、26 |
| | 6 | 35（ロイドの妄想中） |
| | 7 | 41、44 |
| | 8 | 53 |
| | 9 | 57 |
| | 11 | 68、71、72、73 |
| | 12 | 80、81、82、83、84 |
| フィオナ | 5 | 29、30 |
| | 6 | 31、32、33、34 |
| | 9 | 60 |
| | 11 | 67 |
| | 12 | 77、80、81、83、84 |

## 4. ユーリの言葉づかいの特徴

ユーリのアーキタイプを考えたとき、第一には、ロイドの所属する WISE の天敵である国家保安局勤務であり〈黄昏〉を追っている人物であること、ロイドにとっては、幼少期に家族や友人を奪われた憎しみの元凶である敵対国の国家組織の一員ということから、「影」が挙げられるだろう。これは、12 巻で正体を隠したロイドが、ユーリと 1 対 1 で対決している姿からもそう解釈することができる。また、姉ヨルを思うあまりにロイドに反発することから、任務遂行に不可欠なフォージャー家の存続に横やりを入れる「敵対者」でもあるといえる。国家保安局勤務であることを隠していること、姉への愛情やロイドへの憎しみを隠し持っていたことから、当初は「変貌者」としての可能性も持っていたが、ロイドにすぐに正体を見破られたこと、内面を隠し切れなくなっていることから、早い段階で、その役割は除外されたといえる。一方で、ヨルに対する偏執的な愛情のせいで、ときに奇特な発言や行動をすることから、「トリックスター」としての役割

も与えられていると考えることができる。

さて、作中で観察されるユーリのキャラは、普段ヨルや同僚と接している平常時のユーリ、国家保安局での任務中のユーリ、ヨルへの愛情やロイドへの敵対心を表す本音の 3 つの姿である。3 つのキャラに共通して、標準語の「男ことば」を使用し、自称詞は一貫して「ボク」[1] である。

まず、平常時のユーリとは、任務を離れ、普段、ヨルや同僚と話している場面での姿である。表 2 は平常時のユーリの言葉づかいをまとめたものである。

表 2　平常時のユーリの言葉づかい

| 番号 | 言葉づかい | 該当箇所 |
|---|---|---|
| 2-a | あっ、お久しぶりです　ドミニクさん（→先輩・ドミニク） | 2-126 |
| 2-b | はい！ がんばります！（→上司） | 2-138 |
| 2-c | やあはじめまして！ 弟のユーリです！（→ロイド） | 2-154 |
| 2-d | 姉がいつも　お世話になって　おります（→ヨルの同僚） | 5-18 |
| 2-e | 勉強という名の　筋トレを　欠かすな！（→アーニャ） | 5-77 |

先輩、上司、姉の配偶者、姉の同僚、義理の姪に対し、若い男性キャラクターがするだろうと想定される話し方を、マニュアル通りになぞったかのような言葉づかいである。読み手に対して、その想定を裏切るような言語表現はなく、優等生的な話し方から、キャラクターの持つ「エリート」という設定が明確に現れていると言える。

一方で、国家保安局での任務中の話し方を見てみると、雰囲気がやや変わる。

表 3　任務中のユーリの言葉づかい

| 番号 | 言葉づかい | 該当箇所 |
|---|---|---|
| 3-a | パーッと全部　話しちゃいましょうよ？（→尋問相手のヘイワード） | 2-140 |
| 3-b | 保安局に勤めていることを　姉さんには内緒にしています　危険が伴う　仕事だから　心配かけちゃうし　何より―　汚れ仕事を　しているなんて　知られたくないからね（→尋問相手のヘイワード） | 2-144 |
| 3-c | ボクはあなたと違って　家族を…姉さんを　愛している（→尋問相手のヘイワード） | 2-145 |
| 3-d | こんばんは　ゴミクズさん　ステキな牢屋を　予約してあるので　ぜひ当局まで☆（→スパイ） | 7-85 |
| 3-e | あの野郎…（→スパイ容疑者） | 7-95 |
| 3-f | 観念しろ（→スパイ容疑者） | 7-104 |
| 3-g | いい歳こいた　オッサンが　子どもの陰に　隠れようなんて（→テロ犯） | 11-149 |
| 3-h | 痛い！！ そっとやって！！ そっと！！　そっとだってば　うわぁ―――ん！！（→救護班） | 11-151 |

| 番号 | 言葉づかい | 該当箇所 |
|---|---|---|
| 3–i | うおおおおマジか！！ 本当に化けてやがる！！ ボクにそっくりだ！！ 気持ち悪っ！！（→自分に変装したロイド） | 12–148 |
| 3–j | まともに飯が　食えなくなるのは　牢屋に入る　貴様だ！（→自分に変装したロイド） | 12–153 |

3–a ～ 3–c は、容疑者に対する尋問中の流れであるが、初めは丁寧語で話しかけているものが、途中から普通体に変化していることがわかる。ユーリが容疑者や犯人を尋問するシーンは何度か登場するが、いずれも丁寧語と普通体との両方を使っている。これは、尋問が佳境に入ってくると熱が入り、普通体にシフトしていく、ということを表していると考えられるが、一方で、3–c では「ボク」を使い続けており、自称詞に変化は見られない。3–d は容疑者を逮捕するシーンでの発言であるが、丁寧体を用いた上に「ゴミクズさん」「ステキ」「☆」を使用し、コミカルに描かれている。しかし、この場面までに既に尋問での厳しいユーリの姿が作中で描かれており、読者には、この先に行われるであろう尋問風景とのギャップが想起され、ゆえに場面の緊迫感とコミカルな表現とのギャップが伝わる。また、「野郎」「いい歳こいた」「食える」などの表現も、平常時のユーリには見られない男性性の強い「男ことば」である（3–e、g、j）。普段は模範的で優し気な話し方をするユーリが、任務中の緊迫した場面ではその言葉づかいが変化していることが観察できる。一方で、3–h は、バスジャック犯に捕まったアーニャを救出しに向かった際に負傷し、救護部隊に手当てを受けているときの発言である。独自の捜査とはいえ任務に関わっている場面において、子どものように痛がっており、言語表現も落ち着いた平常時の話し方、あるいは任務中の緊迫した話し方からは逸脱している。作品中にはナレーションとして「男はモチベーションの　低い時のダメージには　めっぽう弱かった」との記述があり、姉のためとはいえ、憎きロイドの娘であるアーニャを救出するという案件において、任務時の意欲を持てず、後述する本音の部分が発言に現れてしまっていることがわかる（3 巻、151）。また、3–i は、自分に変装したロイドと対面し、ロイドとは知らぬまま対決をするシーンでの思考であるが、これは完全なる任務中の場面であるにも関わらず、「マジか」「気持ち悪っ」など、緊張感のある言葉づかいではなく、普段の思考に現れる若者らしい話し方が見える。このことから、ユーリの中の、登場当初はきちんと区分けをされていたキャラによる言葉づかいが、徐々に入り混じり始めていると捉えることができるのではないだろうか。

では、ユーリの本音における言葉づかいを見てみる。

表 4　ユーリの本音での言葉づかい

| 番号 | 言葉づかい | 該当箇所 |
|---|---|---|
| 4–a | *やっと姉さんに　会えるッ！　久しぶりに！　ランラン♪* | 2–151 |
| 4–b | *包み込んでくれた　愛を思い出して　全身が痺れる…ッ♡* | 2–151 |
| 4–c | *アルコールを入れて　口を軽くさせ　キサマの薄汚い本性を　暴いてやるぞ！（→ロイド）* | 3–16 |
| 4–d | アンタの言う通りさ　ロイド・フォージャー（→ロイド） | 3–23 |
| 4–e | 少しでも姉さんを　泣かすような　マネをしたら　この僕が　キサマを処…（→ロイド） | 3–51 |
| 4–f | うま━━━━━━━━━━━━━い♡ | 5–22 |
| 4–g | *…こいつが　憎きフォージャーの　連れ子…！！（→アーニャ）* | 5–69 |
| 4–h | *何でボクがこんな　アホそうな小娘を　相手に…（→アーニャ）* | 5–72 |
| 4–i | ああ～～～～～久しぶりの姉さん！！ 久しぶりの　姉さんんん～～～～～～！！！（→ヨル） | 9–90 |
| 4–j | やふぅ━━━━━━━☆　姉さ━━━━━━━ん　暇だから遊びに　来たよ━━━━━っ☆（→ヨル） | 11–43 |
| 4–k | ロッティ貴様　姉さんの　かわいい手首に　何をした━━━！？（→ロイド） | 11–43 |
| 4–l | *ふはははは　保安局の力を　ナメるなよ　ロッティ！！* | 11–54 |
| 4–m | おまえなんかに　負けるもんか　バーカバーカ！！ うへへへ　へは━━━っ！！ | 11–57 |

ユーリの本音に現れる感情は、基本的にはヨルへの過剰なまでの愛情にある。また、それにより、ヨルの配偶者であるロイドへの憎しみ、その連れ子であるアーニャを軽んじる態度がある。それら本音での言葉づかいは非常に独特である。

まず、ヨルへの愛情を表す表現では「♡」「☆」「♪」の記号がよく現れる（4–a、4–b、4–j）。また、気持ちが高ぶっていることを表すように、「━━━━━━━━」（極度に長い長音記号）や「ッ」「っ」（促音）も多用される。初めて長い長音記号が使用されたのは 4–f であるが、これは、ヨルの作った壊滅的に不味い料理を食べ、鼻血を出し嘔吐しながら叫んでいるシーンである。これ以降、この長い長音記号が使用されるようになるが、4–i で一度だけ「～」を連続して使用して長音を表す場面があったことにも触れておく。

ロイドの連れ子であるアーニャに対しては、軽んじているという程度で、ロイドに対する憎しみほどの思いは抱いていないと思われる（4–g、4–h）。一方で、「自分からヨルを奪った」ロイドに対しては、強い敵意を示す。「アンタ」「キサマ」「貴様」「おまえ」などとロイドに呼びかけ、ロイドと競うシーンでは、我を忘れたかのような笑い声を上げることもある（4–l、4–m）。ここで注目すべきは、ロイドと対面した当初は思考の中に留まっていた国家保安局員としてのキャラが、発言に漏れ出始めたタイミングである。4–c ～ e は、いずれもユーリが初めてロイドを紹介され、夕食を共にしているシーンであるが、4–c では思考中で「キサマ」、4–d では発言中でロイ

ドに対し「アンタ」を使用している。しかし、4-e では既に酒に酔い自制が利かなくなっており、ロイド本人に対し「キサマを処…」と危うく保安局員が使用する「処刑」という単語まで言いかけている。「酒に酔ったため」というユーリ自身の変化が原因ではあるが、同時にここには、ロイドがユーリの正体に気付いたタイミングが重なっている。ユーリは酒に酔う前、ヨルに対し、架空の出張の内容を話しているが、それが、国家保安局でよく使われるマニュアル通りのストーリーであったため、敏腕スパイのロイドに保安局員であることをすぐに看過されている。つまりここでは、ロイドに正体を知られる→酒に酔う→思考中の言葉づかいが発言に漏れ出る、という経緯を辿っていることになる。実際ロイドは、ユーリが「処刑」と言いかけたことに気付いており、また、その後、ユーリは酒に酔っていない状態でも、ヨルやロイドに対する心情を隠すことなく発話するようになっている。ここには、「既にロイドはユーリの正体を知っている」という事実を繰り返し読者に認識させる効果があるとともに、「トリックスター」としてユーリを行動させるための作者の意図が見え、また、変貌者であるべきユーリがその役割を離脱した瞬間に当たると言える。また同時に、思考と発言とを明確に分け切れていないことに加え、カタカナ表記がよく使用されていること、自称詞が「ボク」であることから、若く、経験の浅い保安局員であり、また、ヨルのかわいい弟である、というユーリのキャラクターを強く印象付け、「影」でありながらも愛される「トリックスター」というユーリの人物像に繋がっていると考えることができる。

## 5. フィオナ

フィオナは、ロイド同様 WISE に所属するスパイである。そのため、「同調者」であるが、同業者であることに加え、ロイドへの熱烈な恋心を持っている点でも「同調者」であると言える。また、スパイという任務により、役柄を演じていること、ロイドへの思いから予測不能な行動を取ることがあるという側面から「変貌者」の一面もある。一方で、ロイドへの恋心ゆえに、ロイドからすると謎の行動を取ることがあり、また、無表情で思考を見せないようにすることから、ロイドからも「何を考えているのかわからない」と評されることが多く、「トリックスター」の役割も担っている。

フィオナの言葉づかいは、平常時と任務時とで、基本的にはほぼ変化が見られない。

表 5　平常時のフィオナの言葉づかい

| 番号 | 言葉づかい | 該当箇所 |
|---|---|---|
| 5-a | …先程の　お子さんが　アーニャ・　フォージャー？ よく懐いてますね。（→ロイド） | 5-148 |
| 5-b | 計画始動の時に　私が空いていれば　妻役として彼を　もっとサポートできたのに…（→上官） | 5-160 |
| 5-c | フォージャー婦人が　リタイアされた場合は　仕方ないですよね…？（→上官） | 5-161 |

| 番号 | 言葉づかい | 該当箇所 |
|---|---|---|
| 5-d | *そうね　隙あらば妻の座を　乗っ取ろうというのだから　間違ってはいないわ（→ヨル）* | 5-164 |
| 5-e | *あなたにとっては　しょせん義理の娘でしょう　無理せず　肩の荷を下ろしなさい（→ヨル）* | 5-166 |
| 5-f | こんなところで〈黄昏〉ほどのお方が　おままごとに　現をぬかしていては　世界にとっての　損失です（→ロイド） | 5-169 |
| 5-g | *先輩が1人で　保安局を押さえて　くれてるんですもの* | 12-166 |

表6　任務時のフィオナの言葉づかい

| 番号 | 言葉づかい | 該当箇所 |
|---|---|---|
| 6-a | そうだアーニャちゃん（→アーニャ。ロイドの同僚役で） | 5-180 |
| 6-b | 先輩は隅で　うずくまっていれば　結構です（→ロイド） | 6-19 |
| 6-c | 寝呆け　ないで　ください　先輩　私も一緒に　ぶちかます | 6-59 |
| 6-d | がんばりましょう　アナタ♡（→ロイド。ロイドと夫婦役で任務を遂行中に） | 6-29 |
| 6-e | その知人を　紹介してくれれば　自分で依頼するわ（→情報屋フランキー） | 9-166 |
| 6-f | 大人しく　言う通りに　なさい（→情報屋フランキー） | 9-166 |
| 6-g | 来い　直接　そいつの所へ　案内しろ（→情報屋フランキー） | 9-167 |
| 6-h | チョリース（→クラブのボディーガード。フランキーの彼女という変装で） | 9-170 |
| 6-i | 貴様（→情報屋フランキー） | 9-177 |
| 6-j | ださ（→情報屋フランキー） | 9-179 |
| 6-k | 何のこと　かしら（→情報屋フランキー） | 9-180 |
| 6-l | 盗んだファイルを返してもらうわ（→潜入工作員） | 12-169 |
| 6-m | 西の刑務所では　本くらいなら　差し入れてあげられるから　退屈はしないわよ（→潜入工作員） | 12-171 |

フィオナの話し方は基本的には、典型的な「わ」「わよ」「かしら」等の終助詞を用いる標準語の「女ことば」であるが、基本的にほぼ表情が変わらず、女性らしさというものは特に表現されていない。そして、平常時の思考であっても（5-d、e、g）、相手が情報屋や工作員に変わっても（6-e、f、k、l、m）、その言葉づかいは基本的に変化していない。ただし、ごく稀に気が立ってくると、命令形や「貴様」といった「男ことば」に当たる表現を使うこともあるが（6-g、i）、これは、スパイという特殊な任務によるものと思われる。また、任務中に変装している人物像に合わせて、逸脱した表現を使用していることもあるが（6-a、d、h）、非常に珍しく、また、表情に変化は全く見られない。そのため、言語表現上は偽装しているが、見た目上は演技しきれていないように見えるところも「トリックスター」のおもしろさの一面といえるかもしれない。6-j では、ともに任務を果たしたのちに情報屋フランキーに「ださ」とくだけた言葉をかけており、こ

れはフランキーとやや打ち解けたことを示すものであろうが、他にはこのような場面は見られず、フィオナは言葉づかいが揺るがない、という印象が強い。一点フィオナに特徴的なのは、「…」を多用している点である。一切の感情を表に出さず淡々と任務をこなし、同僚から気味悪がられているというフィオナの人物像から、無駄口は一切叩かず、言葉少なに話す、というキャライメージが想定される。発言の前後に「…」が多用されるのは、そういった話し方を文字化したものではないかと推察される。

次に、恋心を抱いているロイドに対してであるが、発話上は一貫して「スパイの先輩後輩」という関係性に基づき、丁寧語で話す。ときに皮肉や嫌味ともとれる表現をロイドに向けることもあり（5–f、6–b、c）、ロイドから見れば「プロに徹する優秀なスパイの後輩」と映っているが、それが、思考に現れるロイドへの思いの表現との大きなギャップを生み、フィオナの魅力として読者には伝わっているものと思われる。では、ロイドへの思いがどのように表現されているか見ていく。

表 7　フィオナのロイドへの思いを表す言葉づかい

| 番号 | 言葉づかい | 該当箇所 |
|---|---|---|
| 7–a | *すき*（→ロイド。白抜きで背景に。アーニャが思考を読んだもの） | 5–170 |
| 7–b | *すぅ　きぃ――――――――――――――♥♥♥*（→ロイド。白抜きで背景に。アーニャが思考を読んだもの） | 5–172 〜 173 |
| 7–c | *穏やかな先輩も素敵…！！ ドキドキして苦しい…！！ 好き…！！（中略）何てかわいいのかしら好き♡* | 6–10 |
| 7–d | *私を頼って　先輩♡*（→ロイド） | 6–20 |
| 7–e | *こんなことも　あろうかと　思う先輩　まじ　最高ッ♡*（→ロイド） | 6–70 |
| 7–f | *先輩の　ハートを　打ち抜くよ　夜帷ッ！！！* | 6–105 |
| 7–g | *す*（→ロイド。目の中に） | 9–161 |
| 7–h | *全部やるのよ夜帷！！* | 12–177 |

フィオナのロイドへの思いを表現したものは、主に「すき」の連呼と「♡」の多用であり、全て思考内に現れていて、発話はなされていない。初めてロイドへの思いが読者に伝わるのは、5巻でアーニャがフィオナの思考を読んだときであるが、ここでは、片側 1 ページあるいは見開き 1 ページを使用し、背景全面に大文字で「すき」の文字を入れており（7–a、b）、非常にインパクトの強いシーンである。その後は、このロイドへの思いは、フィオナが登場するたびに心の声として描かれていくが、その気持ちの異常ともいえる強さを表現するのに、以下の 2 つの手法が用いられている。まず、7–c では「なんてかわいいのかしら好き♡」となっているが、このように「すき」と前文とのあいだに改行やスペースがない、という文が複数登場する。これは、あまりの思いの強さに勢いが止まらないという印象を読者に与えているといえる。次に、「すき」という表現を思考中の発言の中で用いるのではなく、目の中に描く手法である。7–g では、ロイドと

話しているときに、黒目の中に白抜きで「す」という文字が描かれているが、他のシーンでは、その数が複数に増えている場合もある。非常に珍しい手法であるが、これも、ロイドへの強い思いが隠しきれずにあふれ出ている様をよく表現しているといえるだろう。また、フィオナは、ロイドに対する自分を鼓舞するとき、自称詞が「私」から「夜帷」に変化する（7-f、h）。本名である「フィオナ」ではなく、コードネームである「夜帷」を用いていることから、あくまでロイドとは「スパイの先輩後輩」という関係で繋がっていることを強く意識していると解釈することができる。

ここで浮かび上がるのは、ロイドへの思いを表す言葉づかいの過剰なまでの表現である。逆に言えば、この特異性を際立たせるためにも、フィオナの人物像である「冷血」「鉄面皮」といった面を確立する必要があり、そのため、思考以外の表現にブレがなく変化が少ない、という手法を取っているとも考察できる。この極端な言葉づかいの変化がコミカルであると同時に、ロイドに恋をするフィオナのかわいらしさ、いじらしさが読者には伝わり、愛されるキャラクターとなっているといえるだろう。



## 6. 分析結果

以上、「影」「同調者」という、相対する、しかしいずれも主人公にとって重要なキャラクターであり、「変貌者」「トリックスター」という共通の（あるいは共通していた）アーキタイプを持つユーリとフィオナの言葉づかいおよびその切り替わりや変化を観察してきた。「変貌者」は、登場当初は、いずれのキャラクターも正体および本音を隠していたことから共通のアーキタイプであったが、ユーリが早々にそれを放棄したため、ロイドからは変化のある人物とは捉えられなくなった。「トリックスター」については、発言や行動からロイドを翻弄するという意味で、共通するアーキタイプであるといえるだろう。

ユーリとフィオナは本作では愛される位置づけの人物であるが、その理由は異なっていると考えられる。ユーリは、思考が発言や行動に漏れ出てしまい、内面と外面との間の境界が非常に曖昧である。したがって、内面が外に出てしまい、時に子どもっぽいとも思える行動や発言をすることにより、国家保安局員という重要な任務に就いているにも関わらず、非常に「人間くさい」印象を与え、それが彼の魅力の一つとなっているといえるだろう。一方フィオナは、思考と発言との間にはっきりとした境界があり、越境することはない。そのことから、ロイド同様、優秀なスパイであることが読者には伝わるが、しかし、一方で、内面に現れる強烈なロイドへの思慕が強調され、「鉄面皮」とのギャップにより、読者にはよりいじらしい人物として映る。その結果、ユーリもフィオナも、言葉づかいの切り替えについては全く違った特徴を持ちつつも、「トリックスター」として、ときに話を混ぜっ返し、主人公を困惑させ、読者に愛されるキャラクターとなっているのである。また、本来であれば「英雄」に内面を気取られることなく、徹底した敵対関係を持ち続けるべき「影」であるユーリが人間らしく、また一方で「英雄」に寄り添うべき「同

調者」のフィオナが、何を考えているかよくわからない「鉄面皮」として描かれている点も、作品のおもしろさ、トリッキーな設定の一助となっているといえるだろう。

イーヴァソン（2021）では、アーニャのアーキタイプを「トリックスター（＋同調者）」、ヨルのアーキタイプを「変貌者（＋トリックスター）」としている（イーヴァソン、2021、18）。本稿での考察と合わせると、主人公のロイドはアーニャ、ヨル、ユーリ、フィオナというトリックスター的キャラに囲まれているといえる。そして、彼らの影響により、本来は決して揺るがないはずの敏腕スパイであるロイドが翻弄され、変化する／していく様子も、本作では多く描かれている。それにより英雄であるロイドの魅力が増大し、「スパイアクション」というともすれば深刻になりがちなテーマを扱いながらも、コミカルにその世界観を描き、人気を得ている一因となっているといえるのではないだろうか。

## 7. まとめ

本稿では、日本語教育においてフィクション作品に登場する言葉づかいを扱っていくための一端として、作品に登場する言葉づかいの切り替えと変化について観察した。使い分けられるキャラとそれに伴う言葉づかいの変化を知ることは、実際に日本語を学び、選び、使用していこうとする学習者にとって、言葉づかいが変化することでどのように聞き手に与える印象が変化するのかを知る上で、有益である。したがって、彼らが日々接するフィクション作品に現れる言葉づかい、表現を分析していくことには意義があると考える。

今回の結果は、1 作品の 2 人のキャラクターについて観察したものにすぎない。今後、より多くの作品における言語表現、言葉づかいを分析していく必要があることは言うまでもない。しかし、今回観察した、表に現れている発言、思考や本音で使われる言葉づかいの違いを見ていくことにより、日本語話者がいかに場面や状況、発言と思考とで言葉づかいを使い分けているのかを知ることができる。そういった視点からも、思考内容が文字として表現される漫画作品は、日本語教育において教材足り得る大きな可能性を持っているといえるだろう。今後は、同作品中の他キャラクターとの更なる比較や、本性を隠している他作品中のキャラクター、あるいは「トリックスター」として扱われているキャラクターとも比較し、より多くのサンプルを集め、分析していきたい。

**注**

1）1 巻 2 話のヨルとの電話では、「オレ」を使用しているが、それ以降は「ボク」に統一されている。

**参考文献**

イーヴァソン房江（2021）「漫画『SPY × FAMILY』におけるキャラクター言語の日英翻訳 ── アーニャとヨルの言葉遣いとキャラクターを考える ──」『通訳翻訳研究への招待』23、1–21

金水敏（2003）『ヴァーチャル日本語　役割語の謎』岩波書店

金水敏（2017）「言語 ── 日本語から見たマンガ・アニメ」山田奨治（編）『マンガ・アニメで論文・レポートを書く ── 「好き」を学問にする方法 ──』ミネルヴァ書房、239–262

小松満帆（2014）「役割語の日本語教育への導入の試み ── アニメ『風の谷のナウシカ』を用いて ──」『立教大学ランゲージセンター紀要』31、83–93

定延利之（2018）「キャラ論の前提」定延利之（編）『「キャラ」概念の広がりと深まりに向けて』三省堂、10–45

定延利之（2020）『コミュニケーションと言語におけるキャラ』三省堂

高橋すみれ「悪女の「役割」── 少女マンガ「ライフ」にみる少女の「女ことば」──」『Gender and Sexuality: Journal of the Center for Gender Studies』4、17–37

福池秋水（2020）『マンガに見られる話しことばの研究：日本語教育への可能性』ひつじ書房

福池秋水（2022）「漫画登場人物の『キャラ』と話し言葉」『関西外国語大学留学生別科日本語教育論集』32、1–19

三山里実（2021）「漫画における話しことば：少年漫画キャラクターの文末表現を中心に」『日本文學』117、151–172

矢崎満夫（2019）「日本のアニメーションを用いた日本語教育実践の検討」『日本大学大学院総合社会情報研究科紀要』20、169–180

Redmond, Ryan C.（2016）「ボーイズラブマンガにおけるセクシュアリティと役割語」『役割語・キャラクター言語研究国際ワークショップ 2015 報告論集』138–150

Volger, C.（2007）. *The writer's journey: Mythic structure for writers.* Studio City: Michael Wiese Productions.

**参考資料**

遠藤達哉（2019 ～連載中）『SPY × FAMILY』集英社